

ゆいの樹幼稚園と お友達になってくれた皆さんへ



★ゆいの樹の願い

「輝く太陽めざし、すくすくと伸びる大樹のように、愛と勇気をもって、
未来への夢と希望に向かって、この地球を自分の足で歩いてほしい
…ゆいの樹幼稚園の願いです。」

ようこそ♡ゆりの樹幼稚園へ

ゆりの樹幼稚園には素敵な環境・素敵な先生達がいっぱい！！

ここには、そんな幼稚園になる迄の子ども達と職員のこと

大好きな洋史先生と美稚子先生の熱くて温かい

「ゆりの樹ストーリー」があります・・・

●教育理念・伝えたいこと

★ゆいの樹の三つの教育指針 1. 安心 2. 安全 3 感動

「安心」笑顔の素敵先生達の強力なサポートと人数→豊富な職種と人数の人的環境

「安全」先生、親、園児の命を守る不思議な空間→時代に先駆けた物的環境

「感動」先生、親、園児が自ら楽しめる教育→洋史・美稚子先生は皆の感動フシセンター

★ゆいの樹の三つの教育 心の原風景 1. 共有 2. 響育 3. 驚育

「共有」 自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、共感し

ゆいの樹幼稚園が考える三つの友達とのかかわり 1、「私は私」という自分の存在の確立

2、「私とあなた」という二者の関係、共に生きるということ

3、皆の中の自分という存在を軸に子どもを取り巻く教師が、保護者が子どもと共に育つ「共有」

「響育」 子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い掛けたことが

かえてくる感動と思い出の心と心が響きあう「響育」

「驚育」 知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「あ」と驚く教育「驚育」

→心に残った思い出だけか心の原風景に繋がる。生きる力、翼が折れた時、

もう一度飛ぼうという原動力になる

★ゆいの樹のシンボルマーク そう

心は大きく、広く、どっしりと自分の足で、前を向いて、一歩進む、耳は大きく人の話がきける

★ゆいの樹のキャッチフレーズ

「目で見て、耳で聴いて、心で感じて、自分で決める！」

目にすっきり見える、耳にはっきり美(美しい言葉)える、心にくっきり残る 体にしっかり行動変化

★「ゆいの樹の愛言葉」 「いいね、素敵だね、大好き！」 「すべてだいじょうぶ！」

・「人生に失敗はない」

ピンチはチャンス。学びと再チャレンジがあるのみ。失敗した人はチャレンジした勇気の証拠。

・「落ち込むことは成長につながる」

暗い穴に落ちたら、ホップ・ステップ・ジャンプ、何倍も成長を感じられる

・「どうしたいか決めるのは自分」

いじけるのは自分を辛くする。するべきなのは息だけ、「あなたはあなた、私は私、自分がどうしたいか」が大切。

・「人生は二つの道は選べない」

「Never give up」諦めない事。一生懸命頑張ったならば、諦めてもいい。手放す事、行動しない事も一つの行動。別の道を選べばいい。そして、とった行動、選んだ道が良かったと思う生き方をすればいい。

・「感謝することは自分への最高の承認」

ご意見はファンレター、悪口はハッピーコール、賞賛の裏返し、期待されている証拠、感謝あるのみ。

・「シンプル イズ ベスト」

全ての答えは自分の中にある。そして本当の答えは心の目で見て、心の耳で聴いて、自分の心で決める。だから自分軸で生きる。

・「逆境は力」

逆境力こそが人生の困難を乗り越える力となる。この経験が今後必ず生きてくる。

そして、どんなに情けない姿であっても、一生懸命努力した姿は次に続く人の道しるべ、勇気になる

・「必ず上手いく、今が最高に幸せ、今日が人生で一番若い日」

行動しないで後悔するより、行動して学ぶ。人生は二度ない。自分の為の、自分自身の人生。

★「ゆいの樹の 10E」→自分の気持ちに気付くと家族の気持ちに付き、それに気付くと友達の気持ちに付き、愛と思いやりが育ち、困った時には「助けて」が言える、喧嘩した時「ごめんなさい」が言える。そして心からの「ありがとう」が言える。

心が美しいから「ありがとう」という言葉が本当に美しく輝く→皆が幸せになって心が一つになる

エコ・インバイロメント 安心・安全の為の物的・人的環境

エデュケーション 真の自立の教育の循環

真に自立し、自分の事が大好きな子ども達を育てていく「自分が大好きで、自分が信じられる」教育。

エモーション 感情(自分の気持ち・快・不快)に気づく教育、心の教育

「すべきことは息だけ」→今晚何が食べたいですか(10Eの話)

自分の感情に気づいて自分がどうしたいか、どうなりたいかがあるだけ

小さくても自分にとって大切なことを、自分の感情に気づいて、自分で決めるという体感教育

エンターテイメント 気持ちは伝わるまで伝えること、伝わってはじめて、伝えたことになる

好きなものを決めた人(自己決断・自分軸)は感じた気持ちを人に伝えることができる

エンジョイ

人生を楽しみ、幸せに生き抜く喜び 食事と会話の楽しさを共に味わうことができる。

エンパワーメント

最後まであきらめない人間力が育つ 残さず食べつづけることができる。

エクセレント

素晴らしい時間、人生になり、自己成長できる。

自分が小学生の時、20代、30代は大人に見えた、自分がその年になるとその年になったとは思えない、又、例えば、母親が自分を育てた時の年齢を考えれば、誰でも始めから親にはなれないのだから、相手のその年齢に自分がなった時、同じ言動、行動が出来るか、自己成長を感じられるか気づけば、親の育て方も受容できる。成長とは、自分では見えない。…だから

行動変化・エクスチェンジしかない→行動変化とは…「ゆいの樹幼稚園が目指す人間像」です。

★「ゆいの樹が目指す人間像」 人の目を気にする他人軸から自分で決断する自分軸へ行動変化する。

1、いいところに焦点を当てる、赤いものだけを覚えると、青いものに気づかず記憶されない

→赤い欠点を見ていると青い長所に気づかない。だめなところは、見方を変えればすべていいところ

すべては自分のとらえ方、見方の違い、起きた事への解釈力こそ逆境力

その為の肯定語、依頼系、訊ねる言葉、質問力を身に着ける

2、自分からごめんなさいが出来る。すべての人の価値 輝きは同じ、そして人間だから、誰にも間違った行動はある。

人間は弱し、皆完ぺきではない。だから、できないこともあって当たり前。人格を否定せずに、行動だけ変えればいい。

自分に原因があると思えた時、解決の糸口が見つかる。行動変化し、ごめんなさいと自分を受け入れた時、始めて相手が見えてくる。自分が怒っている間は相手の行動、言動も理解できない。自分の取った方行動が悪い場合も、まずは

「守・破・離」守→いわれた通りにやってみる。破→自分の型を破ってみる。離→オリジナルになる、が大切。

遠慮から謙虚へ

3-1、自己肯定になるためには「わからない、教えて、助けて」を自己否定な人ほど自分からいう。

行動が変化すると、心も変化することが本当にある。正直な人ほど正直になれないということに気づいている。

「私、正直です」という人と「なかなか正直になれないんです」という人とどちらが正直に見えるか

実はダメな自分に気づいたときダメではない自分を手に入れている。

従順から正直へ

3-2、自分がダメなところに気づくことが大切

例えば自分が失敗して「のろい」ということを受け入れれば、人から「のろい」と言われても、頭に来たり、落ち込んだり、否定したりすることなく、「そうなんですよ」と受け入れることができる。

そして「どんなところを直したらいいですか」という「わからない、教えて、助けて」が言えるようになる。

その時に、具体的な行動変化を教えてくれる人の意見は、あなたを見ていてくれた証拠だから、良く聞き、具体的な指示ができない人は、ただ負の感情で言っているだけなので気にすることはない。

4-1、受け入れて感謝する**一起こったことすべてに肯定的意図がある。ありがとうと感謝し、そこから学んで成長する**
自分がその段階に達していないことに失敗は気づかせてくれる貴重な体験。失敗したら、その失敗に感謝して、石でも草でもつかんで立ち上がろう。**へつらい、ごますりから 心からの美しい感謝へ**

4-2、失敗や自分の駄目な所を人に伝えることができれば、他の人の失敗を防ぎ、皆が幸せになり、感謝の言葉が返ってくる→自分からの感謝の交流が自分の幸せになり、皆のモチベーションが上がる

5-1、柔軟性とは 例えば、**断れない私、だから、精一杯受け入れる**以外にない、これ以上受け止められない程努力した時、これだけ努力したのだからと断る力が付く、外側、内側、物事は全て両面を知ることが大切。両面を見ると柔軟に受け入れられる

5-2、受け入れるから忍耐力が付く。

いいことも悪いことも続かない。いいことが続くときは、次に備えるとき、悪い時が続くときは耐えるとき。

忍耐力が付くとは、我慢することではなく精一杯楽しんで頑張った後に振り返った時、毎日よく頑張ってきたなあと思えた時、忍耐力が付いたことになる。

だから、毎日精一杯楽しんで生きる以外に忍耐力が付く方法はない。そうすると、いいことがやってくる

6、**勇気をもって、前に向かって頑張る**ということは、一人で我慢して、やり続けることではなく、人にかかわって、自分や人のいいところを受け止めて、「**ありがとう、ごめんなさい、わからない、教えて、助けて**」を伝えて、人を支えて、人に支えられて、助けて、助けられて、置かれた場所で今、目の前にある自分で選んで決めた道と時間のプロセスを、人と共に夢中で楽しんで、精一杯取り組み、自分らしく生きていくこと。

そして、いつか、時がたって振り返った時、私よく頑張ったなあと思える自分がいることが本当に頑張るといこと」

「**頑張るとは無理して一人で頑張らないこと、皆で支えあうこと**」人間は家族の愛、友達や社会の「人と人とのつながり」があるところだとえ一人でも、へこたれず、諦めず本当に頑張れる。

7、**自立の循環(自己決断→自己責任→自己承認→自信→自他分離→個性→共感→自立)を通して自己責任が取れる**
自己決断したことのみ自己責任、承認が取れ、自信につながり、相手と自分が違う個性と、好きという共感、認められるところに真の自立がある。

自分で決めた事だから、いつでもその決断は、行動変化の中で柔軟に変えることができる。

人は成長するからこそ決断は変わる。愛と勇気と共に。

この7つの「**ゆいの樹幼稚園の目指す人間像**」は一見難しいと感じられるでしょう。その通りです。

「目指す人間像」の人の**いいところに焦点を当てる、謙虚、正直、感謝、柔軟性**があって**勇気を持って自己責任がとれる**ことが全てできる人なんていません。

そして、「**私、正直でなかった**」と気づければ、「**私は正直ですと言いたい人**」より、**正直な人**です。

気づいた時に不思議なことに手に入れているのです。穏やかになれます。

だから、そんな自分であることに気づくことが大切です。気づいたことだけ行動変化できます。

この「**7つの目指す人間像**」の前には実はもう3つ、目指す姿があるので。

「**一つ目は愛—そこに愛をもっているか**」

同じ言葉を言ってもそこに愛を持って伝えているか、憎しみを持って伝えているのかでは行動、言動は全く違います。

「**二つ目は気づき—自分のあいう・姿・言動・行動に気づいているか**」

傲慢な人は自分の傲慢に気づいていません。怒っているときはなんで自分が怒っているかに気づきません。

「**三つ目は自他受容—だめだと自分が感じている自分も、相手も受け止めているか**」です。

どんな嫌な自分も受け入れていたら、そのことで失敗したらすぐ気付けます。「失敗の川」は冷たい川です。気づけば、失敗の川に足を突っ込んだ時、そのことがすぐわかる。失敗や自分の駄目な所に気付く人は素晴らしい。だから、すぐ出ることができる、そして、その駄目な自分から今までの自分がある。

私(美稚子)に例えるなら、「怖い」の「小心者だから」を、いいところに焦点を当てて言い換えると「慎重、堅実」。だから、園児の安心安全の園舎ができ、教育理念が来上がったと思えば、小心者に「ありがとう」です。

その自分も受容出来た時、相手の言葉も素直に受け入れられるから、他者受容もできるのです。失敗の川の冷たさ、自分の情けなさに気づくたびに、「それが私だ」と自分が何者か、わかっていく。だから、失敗したことに「ありがとう」、失敗した私に「いい体験ができた、学べた」成長した私に「おめでとう」

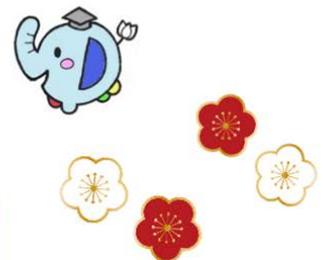
そして、それが「私らしさだ」と受け入れた時、横に流れていた 溺れる冷たい「失敗の川は」どっしりとした縦になった自分の中の軸、温かい「これが自分だ」という「大樹の幹」になるのです。それがゆりの樹幼稚園の「大樹のようにすくすく伸びる子どもたち」の意味です。

そしてこれは目指す人間像の根底にあるものであり、上位にあるものですから、目指す人間像の文言からは省いています。そして、いつもそのことを意識し、大切にしています。

自分のダメなところに気づき、失敗から自分のダメなところがあったからこそ今の人生がある、よかったのだと自分のダメなところを、受け入れ、自己受容していくと人の気持ちもわか、他者受容ができる。

そのプロセスこそが人生、そうすると、自分の人生を、自分のシナリオで、自分の足で歩いていくパワーが育ち、自己責任が取れる人に育つのです。

ゆりの樹幼稚園がめざす人間像



- | 自分軸 | ⇨他人軸 |
|--|------------|
| 1、心と体が健やかな人—明るく、元気
人の良いところに焦点をあてることができる | |
| 2、謙虚な人—清く、優しい
人の成長を自分の喜びとし、手柄を自慢しない、相手をたて、「ごめんなさい」が言える | ⇨遠慮 |
| 3、正直な人—自己肯定、素直
「わからないことはわからない、教えて、助けて」と言え、聞くことができる | ⇨従順 |
| 4、感謝できる人—他者肯定、愛らしい
起こることすべてを受け止めて、必要だった、だからよかったと感じ、「ありがとう」が言える | ⇨へつらい・ごますり |
| 5、柔軟性がある人—かしこく、温かい
外(クレーム・アクシデント) 内(自分の問題・ストレス)の
どんな変事にも対応しようとする | |
| 6、勇気がある人—どっしりとして力強い
自分を信じて新しいことにチャレンジ、最後まであきらめないで一步を踏み出すことができる | |
| 7、自己責任がとれる人—凜として、おだやか
自己承認し、言い訳をせず、人のせいにならない
「だって・でも・どうせ」を言わないで、
今、何が出来るかを考えようとする | ⇨賞賛 |

子ども達の成長のプロセスを見ることのできるのは親と教師だけ。その幸せを感じることができる人、我が子、園児の幸せ、ひいては人の幸せが自分の幸せと感じられる人は、最も幸せな人になる。そして人に認められ、相手も自分もモチベーションを上げられるそんな陽だまりのような人になれる。

吉塚ゆりの樹に始まった私達のストーリー

父の急死を受けて、27歳で吉塚ゆりの樹幼稚園の園長になった時にある社長さんに私(美稚子)はこう尋ねた。「私は気が小さいのに気は強いんです。気が強ければ、気が大きればいいし、気が小さければ、気が弱かったらこんなに悩まないのに・・・だから不安がいっぱいで、後悔するし、臆病で、怖がりで、こんな私が園長をやっているのでしょうか」と。その時こう言われた。

「気が大きい人は用心しないので、失敗する、気が小さいから慎重に物事をすすめられる。人に気配りができる。気が弱い人は決断できないから人から信用されない、気が強いから、人を引っ張っていく覇気と勇気と決断力がある。だから気が小さくて、気が強いことは、よいことです。

幼児の命と教育を預かる園長には最適な性格ですよ」と。

私は心から感謝し、この言葉を心に刻んだ。そして、「園長50%、母親50%でがんばります」と伝えたらこういわれた。「園長50%、母親50%な人なんて誰もいない、園長100%、母親100%でないと、納得しない、がんばりなさい」と。私が「園長100%、母親100%で頑張ります」と伝えると、たたみかけるように言われた。「頑張りますではなく、頑張ったという結果を出しなさい」と。自ら会社を立上げ、苦勞し成功されている方の言葉には説得力があった。

そこで、私が今度決めたのは頑張る方向。どちらに向かって進むか、ベクトルの方向を間違えないこと。「目標を明確にすること」

東京に行くのか、鹿児島に行くのか、選択し、決定することはとても大切なこと。方法は、徒歩でも、自転車でも、自動車でも飛行機でも、なんでもいい、自分のスピードと能力に合わせればいい。そして、決めたことは、園長、母親業、両方に必要なこと「**最新の教育学と、心理学を学ぶこと**」そして「福岡で一番の幼児教育者になる」こと。それから洋史先生と二人三脚の子育て業、幼稚園の新しい改革が始まった。

「私達の願い」★園児と保護者と職員にとって感動しセンターであり続けること★

1、園舎を太陽の熱と地下の涼しい風を取り入れた園舎にしたこと

・15歳の私(美稚子)は、あと3か月の命であることを父と母が話しているのを寝床で聞いた。がんの本を読み漁った、命は助かったが、失明の恐れがあった、シャント手術を受けた私は健康について本気で考える様になった。泣き崩れる母に父が言った言葉「この子が死ぬと思うのではなく、15年この子の親でいられたことに感謝しよう」私のポジティブシンキングの礎えとなった。

・30年前朝礼でバツバツ倒れる小学生、高度成長期冷暖房に入りすぎて、皮膚の温度調節が利かなくなった結果である。だから私達は幼い子を冷暖房の園舎には入れたくなかった。そして、少し夏は涼しく、冬はあたたかくしてあげたかった。

そんな園舎を探したけれど、世界中にはなかった・・・だから私達は自分で考えた。そのころ日経ビジネスに太陽の熱と大地の風ハウスの記事を見た。これだと思った。社長に直談判に行った。自宅程度は立てたことがあるけれど、こんな大きな園舎は自信がないと彼は言った。

今、OMソーラーだけで私たちは考えている、これでは冬はいいが夏は涼しくならない・・・失敗してもともと、「やってみてくれませんか」と説得を続けた、彼は動いた。その園舎は2000年に建った。当時は見向きもされなかったが、神戸の大震災以後、取材が殺到した。社長は「環境化学賞」を受けた。今でも取材があると、一番にゆりの樹幼稚園のことを語ってくれる

2、浮き床構造→ 空気を床の下に通すために2重の床にした。施工した職人の疲れが少なく聞いた。これはいけると確信した。結果、子どもたちの土踏まず形成に、職員の足腰の疲れ軽減に役立つ床になった、園児は幼稚園に来ると、気持ちよくてすぐにはだしになって遊んでいる。

空気循環のエコの園舎→アトピーの園児の皮膚によく影響が出た、食事のおいがすぐに消えた、風邪の蔓延が防ぐことができた、ぜんそくの園児が苦しくなくなった、園児にも、保護者にも、職員にも健康に貢献できた園舎は私達の一番居心地のいい空間になった。

3、食を選択制、アレルギー対応にしたこと

40年近く前、まだアレルギーなどはあまり言われていない時代、私(美稚子)は、ハウスダストのアレルギーの為に妊娠できない時期があった。医師の助言を振り切って妊娠することを決断した。残念だが一人目は5カ月で流産した。そして2回目の妊娠、不思議なことに娘を産んだ後、私のアトピーは消失し、娘をアトピー性皮膚に苦しませることになった。30数年前、娘がアトピー性皮膚炎とたびかさなる口内炎に昼夜逆転の生活が続いたことが子育ての悩みの第一歩。だからこそ、子どもたちの健康を考え、園舎は空気循環・天然木にこだわった。

皆と一緒に給食が食べられないお友達を見るにつけ、何とかならないか、寂しいお友達がいないようにしたいと考え、「**幼稚園では初めての給食選択制**」を取り入れ、「**お弁当のお友達がいってもいい、給食のお友達がいってもいい**」どちらも素敵と両方を受容しつつアレルギーのお友達に対応できる当時では、画期的な試みだと感じた。

この「給食選択制と、前日取り消しができる制度」に賛同し、対応してくれた会社が唯一一つあった。その後、アレルギー対応食も進めてきた。

そして、今の時代、食のアレルゲンを多く持つ園児達も増え、オーガニックを大切にされる保護者の方も増えてきた。玄海ゆりの樹幼稚園にゆりのきファームを作ってから、有機栽培、無農薬の野菜やゆりの樹米作りを通してその大切さを学んだ、色々な会社をお願いしてきたが、「アレルギー対応食」と同時に「給食選択制」と、「取消し」ができる制度に対応してくれるところはなかった。そのすべてを対応してくれる交渉をした。全面的に移行。新しい給食のシステム、また一歩新しいゆりの樹幼稚園の進化・・・園児達の健康と身体作りのために すべての園児の安全の為に。

4. 被服の先生を常置したこと

昔はお遊戯会の衣装作成は職員の手づくりだった、職員が教育に専念できるように保護者に作成を頼んだ。そして、娘が3歳の時、幼稚園のお遊戯会の衣装は親の手作りだった。私(美稚子)も縫うことになった。6か月の息子が寄ってくる、危ない・・・。その時思った、赤ちゃんを持つ若いおかあさんに針は持たせたくない、20年後には縫えない母親も出てくるだろう・・・。だから被服の先生を探して置いた、あれから30年、彼女が作成した衣装は3000着を超える。バックの絵も彼女の温かみあふれる手作りの布絵・・・お遊戯会の会場はあたたかくなる・・・

5. 3歳クラス、2歳児クラス、1歳児クラスを創ったこと、入園説明会を毎月お休みの日にする理由

40年前、4月泣く園児はやめてくださいというくらい、園児数が多かった時代、そして1週間近く並んで、申し込む親を見て赤ちゃんを持つ若い両親を並ばせるのは申し訳ないと思つた・・・未就園児クラスをつくればいい・・・3歳から始まった、そして当時は幼稚園には珍しい1歳児クラスも今はある。優先入園だから並ばなくていい、1歳児はお試し入会、幼稚園のことも先生のこともわかって本入園できる安心感がある。だからずっと2年待ちが続いている。

説明会は当時150人越え、誰がだれかわからないまま終わっていた、少人数で一人一人の親と顔をあわせて、心に響く説明会にしたい、子どもも遊んで帰れる体験型「みんなで遊ぼう!説明会」にしよう、今では当たり前になったが、休日出勤してもらうために労働基準法を学んだ、1年変形にすればいい、30年前から有休も100%消化・・・はゆりの樹では当たり前というおまけもついた。先生と遊んでいる間、私たちの教育理念をゆっくり、ゆったり聞いてもらう、納得した人だけが入園してくれる。

6. 行事の分割化

運動会、お遊戯会、参観は丸一日、準備も当日も、職員も、手伝う親も、ぐったり。広い小学校では、我が子は、まめつぶ、兄弟がいれば、お母さんは行ったり来たり、人数多い、時間長い、狭い、親の手伝いは多い・・・。保護者と職員の大変さを軽減したい・・・楽しんで、感動して行事を終えてほしい・・・だったら、私たちが頑張ればいい、運動会5回、発表会4回、参観6回すべて学年別。学年の組み合わせも園児の発達を促すことにつながった。そして何より、職員が同じ学年の他のクラスの先生と比較されるというプレッシャーをなくすことが出来た。

音楽発表会は、2歳児から5歳児までの各1クラスを縦割りして4部制にする事で、年齢ごとの発達を参観してもらう。四部制にする事で、同じ合奏曲に取り組むことができる練習のプロセスを通してクラスの垣根を越えて学年同士で協力し合う事ができる。チームティーチングの試みとしても、歌以外は、4クラス同じ合奏なので不安もなく新しい取り組みをしながら、個性の違うクラスの担任とのふれあいの中で、子ども達の新たな個性や良さが見出せる。同じパートごとに、クラスの垣根を越えて、学年ごとに教師も園児も協力し合うことができたなら、きっと、今までと違った感動が生まれる。また、各部を短くすることで、子どもたちの集中力も持続できる・・・

運動会は、学年ごとで実施することで、園児達の同じ年齢での昇華されたスポーツ精神を培うことができる。同学年での発達を参観してもらい、同学年が取組む運動プログラムの練習のプロセスを通して、良い意味の競争心が芽生え自己有能感を高めていく。

お店屋さんごっこでは、年長組が2歳児、年中組が年少組をしっかりと世話をしてくれるリーダー活動としての頼もしい姿が見られる。この組み合わせは、表現発表会へと繋がっていく。年長組は、一年生、年中組は年長組になる心構えを培うことができる。

クリスマスでは年中長組はナイトスクール、お泊りキャンプに向けて年中組は夜の幼稚園を体験

表現発表会では、年長組と2歳児、年中と年少組の組み合わせで実施することで年長組は最後の表現発表会を大舞台上で素晴らしい、感情表現に取り組むことで、**ゆりの樹幼稚園の感情に気づく教育(自己選択・自己決断から個性と共感に至る自立の循環)の集大成としての感動の育ちの姿**がある。2歳児の保護者の方は我が子の3年後の成長の姿を想像して、感動して見てもらうことで感動が深まる。年中組は、年少組との組み合わせの発表会により、年中組最後の大きな行事でのオープニングを経験することで、幼稚園での年長組になる最高学年になる心構えを身につけ、自信を付けていき、発表会を四部制にしているのはこの育ちが更に伸びていく・・・

部を分けることで、新たな可能性も広がった。行事を幼稚園ですることが可能となり、通常の保育の延長で発表子ども達や担任も落ち着いて発表に取り組むことができ、職員同士の協力体制もよりスムーズになった。その助け合う姿を見て親が感動してくれる、副産物もあった・・・。他の部の職員がすべてのバックヤード(裏方)の仕事をするので保護者の手伝いがいらなくなった。ゆっくり、ゆったり行事の実現・・・はかなった

7. お誕生会で感動する

20年前、はたちの成人式があれいている映像を見て思った。5歳、10歳、15歳の節目を感動して思い出に残る原風景にしてほしい・・・だからお誕生日を大切に。朝礼で職員ハッピーバースデーの歌、バス停で、玄関でも、ハッピーバースデー、・・・園では一人ひとりだっことした・・・その年齢に応じた適時・適量の刺激を持った学年別保育を大切に実施するために、お誕生日を特別に大事な日と考え、2歳児・年少組はクラス別に、親と密接かかわってもらい、年中組は四分の一成人式、男の子はタキシード、女の子はドレスにティアラを付けてお祝いする。両親にはサプライズのプレゼント、母親、父親になった記念日だから・・・何かもらえることは知っていた両親もそれが両親のことを考えたサプライズのそれぞれが考えたオリジナル作品だとわかって・・・涙する。

吉塚ゆりの樹幼稚園の年長組はバースデーショッピング、110円持って大きくなって何になりたいかを実現するためのものを買う、そして部屋に戻ったらshow&tellの教育、どんな理由でそれを取捨選択し、決断したかを発表してもらい、目標の明確化をし、お祝いする。朝、剣を買うと行って出かけた男の子が色紙を買って帰った。理由を訪ねると「剣は自分しか遊べないが、色紙ならお姉ちゃんと妹に分けてあげられる・・・」聞いた親が涙ながらに伝えてくれた。それを聞いた教師も感動で涙した。園児の成長の足跡の言葉・・・自ら選択し、決断する力がここでも息づいている。

玄海ゆりの樹幼稚園は近くに100円ショップがない。でも隣には乗馬クラブがある。これだ、お誕生日記念としてすぐ近くにある乗馬クラブでバースデー乗馬体験を毎月実施することとした。馬に乗った肌感覚、湧きだした感情この体感教育を大切に過ごす時間生き物との触れ合いの時間。一人で馬に乗った写真はサプライズで両親のもとに届く。

さらに、園児達の育ちに繋げる為に、園に帰ってからその体験を他園児の前で発表し(SHOW&TELLの教育)自分の思いを伝える体験をする。「自分が大好きで、自分が信じられる自立のゆりの樹幼稚園の教育循環を通して、更に大切なことは、「自分の気持ちや思いを伝える」ということ。「伝えたつもりでも伝わらなかったら、伝えたことにはならない」からである。自分の気持ちに気づき、その気持ちに正直に、友達の前で発表することで『自信を持つー自分を信じる』ということはどういうことなのかを体感し、本当の自信もついてくる。正直でなければ、本当の自分の思いでなければ、人には伝わらないからである。誕生会でのバースデー体験が心の原風景の一つに、そして、園児の自信に結び付くように、実施することが教育の本質。

8. 自ら取捨選択、決断する教育

ドリカムタイム

園児が自由に選べる保育はできないか考えた。大学で様々な保育を学んだ職員にやりたい保育をさせてあげたかった。実施までに10年かかったが教育プログラムは出来た。後は職員の気持ち、全員が賛同してくれた。

学年ごとの園児に対して、主任や年長中組の先生ほか、体育、絵画、茶道、家庭科、陶芸、おもちゃコンサルタントの先生など、約10名が同時に違う活動をする。子どもたちは、それぞれの内容を聞いて把握したあと好きな活動をする。活動後、満足度を絵で記録。子ども達が成人する時代に「自分の夢をかなえる為の原動力になる教育」ドリカムタイムを開始。

ドリカムタイムとは自ら何をしたいか考え、保育を選択決定し、その結果に責任を持ち、自己承認をする活動。選択した活動と満足度を自分自身が記録することで、子どもたちの興味や発達段階を知り、教育の方向性など一人一人に適した指導ができるこの教育は、遊びを通して自ら考え、決断、行動できる自主性を養い、他者の目に影響されない自信と本当の生きる力を身につけ、自己肯定感と自己有能感が芽生え、自己コントロール能力が育ち、人に優しく同時に覇気のある子どもへ育つ。もちろん職員も、副担任もやりたい内容だから楽しむことが出来る。その楽しさは園児に伝わる。

キラキラタイム ★自己決定力と自分を信じる力を育てるために★

いい園舎を探して世界中を回った時に世界のおもちゃも買った。それを置く場所を創ろうと思った、福岡市は土地が高い、だから吉塚ゆりの樹幼稚園は3階建てを考えた。ところが階段に面積を取られる、だから全部、階段室にしたら11フロアになった、3階建ての予算が一挙に11階建ての金額になった。今、無理だ・・・迷った、そして園児達のために当然実行した・・・そのキラキラタワーは園児の人気では一番の効果となった。

自分が「不思議だな？どうして？」と感じたことを自ら探究し、解決していく成功体験の積み重ねが本当の自信を生み出し、自分を大好きになる原動力となる。その為に科学的なしつらえのある遊び場。園舎を見て回った時に集めた世界中のおもちゃと共に、ユニークな設えの不思議を探

るための建物キラキラタワーで 子ども達の感覚の鋭敏性、創造力、考える力、柔軟性、感性を培い、視野を広げるその年齢に不可欠な子ども達の望ましい成長と発達を促す教育実現の為、3階建て11フロアのユニークな遊びの自由広場『キラキラタワー』。どうしたら『自分が大好きで、自分が信じられる』教育が実践できるか。私達は子ども達が「自己選択→決断→承認→自信→自他分離→個別性→共感→自立」の教育の循環を発達レベルの中で成し遂げることであった。

その為に、ドリカムタイムという教育をはじめ、それが毎日実践できる場としての科学的な設えのある『キラキラタワー』を建築。同時に世界のおもちゃと共に毎日行う活動、キラキラタイムを始めた。雨に日の発散の場所になった。子ども達は夢中で遊び続ける。

玄海ゆりの樹幼稚園は広い。部屋は既定の2倍、廊下迄入ると4倍、運動場は8倍、キラキラタワーを建てる必要はない。各組や、土地が広いので、二つ目のホール、ケアキホール、ケアキデッキを作り、そこに世界の大型遊具、おもちゃを置いている。

9. 他にはない物的環境と人的環境

園児と職員の為に命を守る不思議な大空間、最高の環境にする、そして訪れた人々みんながホッとできる空間にするそれが私達の願い。教育に必要な人的環境、保育内容、教育理念は私が担当、科学的な学びをしていた洋史園長は人に優しい物的環境を考えた。

物的環境

吉塚ゆりの樹幼稚園、園舎建築当時2000年に入りに防犯カメラをつけたことから始まった。プライバシー侵害がという時代だった。

必ず必要な時代が来る、保護者を説得した。その後、有名な小学校乱入事件はおきた。クラスの窓にはE COPガラスコーティング（紫外線防止）ゆりの樹幼稚園に安全でない場所はない、ただ一つ地震が起きた時、ゆりの樹で危ないのは電球が落ちてきて怪我することだけ、割れない電球はないのか、探した、北九州で開発していることを知った。すぐに予約した。全ての蛍光管をLEDライト、（各部屋には加湿器（風邪の予防）と除湿器（夏涼しくなる）、空気清浄機（PM2.5防止）日本では、初めての試み、吉塚ゆりの樹幼稚園の各部屋にはウォーターサーバー設置（朝持ってきたお茶を昼から園児に飲ませたくなかった）した。

玄海ゆりの樹幼稚園は広いので、家庭の教育力を促すために、各部屋にキッチン、畳のリビングを設置、冷蔵庫、洗濯機を置いた。

両園とも入り口には手指消毒機器、トイレにはエアータオル（O157を防ぐため）蚊取り機（今の園児はマンション住まい、蚊に刺されたことがないまま入園、初めて刺された日には異常に腫れ上がる）次亜塩素酸生成器設置、御迎いのバスは低公害車『ECOバス』高濃度プラズマクラスターも天井に搭載（インフルエンザが減った）クレベリンカートリッジによる長期除菌・・・クワイスイアによる除菌、脱臭・IP無線機もつけた。そして私(美稚子)はバスが待てない人だった。「次のバスが来るまで、あと何分とわかればいいのに」そのつぶやきを聞いた洋史園長はカー・ドコ・システム（えんネット）に取り組んでくれた。開発に成功。バスの待ち時間がなくなった。特許を取らなかったのも、このシステムは日本中に広がった。

玄海ゆりの樹幼稚園設立ストーリー

ある日のこと、一本の電話が鳴った。宗像市からだった。公立幼稚園の民営化をするので申し込みませんかという内容だった、いつもなら、他に幼稚園をする気持ちはないので、すぐに電話を切るのだけれど、その時だけはひっかかった。すぐに洋史先生に電話をつないだ。玄海町の玄海東幼稚園、玄海幼稚園、島の小学校の一部屋に設置された地島分園、三つの統合。私(美稚子)は無理だと思った。

人口が減っての統合、宗像市の一番はしっこ海のそば、誰も手をあげないだろう、発展は見込めないだろうとの話だった。また玄海町が宗像市と合併するにあたって、公立を全廃するためだった。条件は厳しかった。入園料、園納金、スタッフ、ゆりの樹幼稚園との教育理念との違い、バス送迎の広さ、けれど洋史先生の決意は固かった「やりたい、自然豊かな、玄海で、のびのびと自然教育、科学教育がやりたい」と。

今まで25年私(美稚子)を支えてくれた洋史先生、「何としても今度は私が支えよう」決心した。そして、教育理念、職員教育以外は洋史先生にお願いした。それが功を奏したのか、20園の応募、審査だったが、仏様のような人柄の洋史先生は玄海町の方々に慕われた、教育理念、経営状態もダントツで宗像市から選出された。何より、初めての住民説明会で、宗像市の職員の方が言った言葉が今でも忘れられない。「長い間、調査をし、お二人とヒアリングを重ねてきた、教育方針も経営状態も素晴らしい、何より、お二人の人柄が素晴らしい。この方たちにやってほしいと思ってきた。選ばれてほしいと思っていた、だから私達は、自信をもって、高杉学園をご紹介します」と。そして住民説明会でも、全面的に受け入れられた。

新園舎は洋史先生の考える科学的しつらえのある設計、広々としてのびのびしながら、家庭の温かさの延長で教育できる環境ができた。平成20年のことである。でも最初は17名の入園しかなかった、そして、創立14年目 園児数275名、入園2年待ちの幼稚園へと成長した。

これからの新しい全天候型屋根付きグラウンドに向けての新しい吉塚ゆりの樹ストーリー

初代園長が吉塚ゆりの樹幼稚園の隣接地 500 坪を購入して早 38 年となった。今の園舎はその時の土地に立っている。当時の父(初代園長)はもう 72 歳で、私達は 27 歳と 30 歳、若く不安もあったが、その時の決断が、吉塚ゆりの樹幼稚園の土台となり、今を創っている。それまで、運動会は小学校や中学校のグラウンドを借りて、多くの保護者の手伝いがあった開催。「**全国児で、自分の幼稚園のグラウンドで運動会が始めてできた**」と、泣いて喜んで、最後の一人の園児迄、玄関にたつて見送っていた父の姿が今でも、目に焼き付いている。その五日後に父はこの世を去った。さぞかし無念だったことだろう。そして、その父の思いがこもった土地があったからこそ、仮設園舎を造ることもなく既存の園舎の目前で造られていく現在の新しい園舎が出来上がるのを見ながら保育することができた。建設中の保育場所を気にすることがないので、思い切り時間(普通は園舎を立てるのは半年位だが、一年半かけた子ども達のことを考えた園舎にすることができた。家族参加の行事をし、工事中の仕切りの扉に、皆とペンキでペイントしたのも今ではいい思い出。

初代園長・理事長(両親)の思いは、私たちの願いにもなり、隣の倉庫を見上げながら、40 年間、「いつかは」とずっと願ってきた。この土地がゆりの樹幼稚園の運動場になったら・・・その時は・・・と。やっと夢に近づいてきた。令和元年、お隣の引越しが始まった、大変な取り組みだが、両親と長年の私達の思いを考えると、園児達の幸せとゆりの樹幼稚園の教育充実の為に、「**命を張っても頑張ろう!**」と決意をした。

12 年前、監督官庁に計画書を出したが、前例がない一言で蹴られた。7 年後再提出、駄目だった。その 2 年後再々提出、そしてその 4 月コロナの為の緊急事態宣言がでた。もう一度、足を運んで。「このコロナ禍の中 7 年前にこの全天候型グラウンドができていたら、外で、どんな保育でもできた、その責任をどうとられるのか」と。今までも、ゆりの樹が時代に先駆けて実践してきたことがよかったことが多くあった。その過去も踏まえて、再検討してくれた。2 週間後、突然、関係機関から日本で初めての特別許可がおりた、7 年前、却下したことのお詫びもあった。

12 年かかった。令和 2 年 12 月全天候型第 1 グラウンド 人工芝の第 3・2 グラウンド、広い駐車場、完成。こんな設備は他にはないという素敵で、画期的な未来型環境になった。

人的環境

ゆりの樹幼稚園は全クラス二人担任制ペアクラス。その為、ゆりの樹幼稚園には担任と共に、お母さん先生を他園の 3 倍採用。お母さん先生とは元幼稚園教諭であった先生が子育てを一段落させ、再び戻ってくれた先生のこと、自分の子育ての経験も加えて担任をサポートしてくれる頼もしい存在。30 数年前のこと、これから先、一人では担任ができない時代が来るだろうと思った、我が子を一人の先生のみだけで果たして安全だろうかと疑問を持った、副担だけでなく、各学年主任も置いた、被服の先生だけでなく、看護師、廊下の警備、臨床心理士、フリーの先生も置いた。安全に上限はない。おかげで私の考える時間が増えた、私(美稚子)は大学院にも通えた。大学で講師もした、学んで成長したゆりの樹スピリッツは、あの園長の幼稚園に勤務したいという学生の就職、職員育成にも役立っている

10. 他にはない職員にとってもリラックスして楽しみながら、感動が大きい行事

クリスマスナイトスクール

自分が望んでいる、最適な園舎を探すために世界中を回った、その時、北欧で流星群が来るから夜の保育をするという掲示を見た。これだ、その年齢に、その時に必要な適時適量の保育、クリスマスを夜にすることにした。先生たちには、ディズニーのプリンセスの衣装を買ってきてもらった、私(美稚子)は魔女、洋史先生はサンタクロース。幼稚園は一夜だけディズニーの国へと生まれ変わる、園児の興奮は半端でない

陶芸教育

我が子の粘土細工が素晴らしかった、感動した、これを形にしたいと思った、陶芸教室に 3 年通った、陶芸窯を 2 台かって陶芸室を作った、年長組は大きくなったら何になりたいかを考え陶芸作品を作る、そして将来の目標は視覚的に「見える化」され明確になる。私は当分窯たきばあさんになるが、歯型を作った園児は今、福岡歯科大生・・・ノートと机を創った子は九大合格と報告に来てくれる

卒園旅行

吉塚駅がきれいになった、門司に鉄道記念館ができた、これを活用しない手はないと、駅長に、特別列車、門司まで、扉があかない、園児だけが乗車できる特別列車「ゆりの樹号」を仕立てることはできないかと直談判・・・採算が合わない、そんなことはできない、むりだ・・・3 年通った。決断してくれた、あれから 15 年、2 月には吉塚で乗車、玄海ゆりの樹幼稚園ができてからは、東郷駅だけで扉が開き、特快を逃がし、特急を逃がしながら、あちこちの駅で泊り、その間に昼食も済ませ、門司についたら門司鉄道記念館を見学。列車内では、職員が駅員姿で、パフォーマンス、本当の駅長にも同乗してもらい、切符切り、変身ゲーム、ゆりの樹オリジナルのダイヤにはない、特別列車は赤間駅の先、土手から盛大な感動した玄海ゆりの樹幼稚園の保護者の皆様からの見送りを受けて今も続いている。私たちからも列車から「ありがとうのサプライズ返し」、皆涙で追いかけてくれる光景は感動の一言。

そして令和 2 年の 4 月 コロナ過による自主登園が始まった。JR の担当者からの電話「今年はまだ実施は無理ですね」

その彼に私(美稚子)は言った「何年もかけて実現した卒園旅行、今やめたら、終わってしまう、もしコロナがひどくなったら、園児ではなく職

員だけでも乗車する、それでも無理なら、空で走らせるから、キャンセルはしないで、ダイヤもそのままにしてください」その言葉に大の男の担当者が泣いてくれた。「毎日、毎日キャンセルが続く中で、勇気と元気をもらいました、本当に、本当にありがとうございます」そして、緊急事態宣言が開け、卒園旅行は実現した。感動した担当者が「ゆりの樹幼稚園の為なら何でもしますので、言ってください」その言葉に「ヘッドマークつけられますか」と提案した。前日、ヘッドマークを付ける作業をしてくれた鉄道マンたち。当日、コロナを吹き飛ばすかのように、ゆりの樹オリジナルのヘッドマークを付けた日本初の卒園電車は門司港まで駆け抜けた。門司港鉄道記念館の館長が感動してくれ、オリジナルパネルを作成、ヘッドマークをコピーして鉄道記念館に展示されているSLにもつけてくれた、オリジナル乗車券を作成して待っていてくれた。コロナだから起きた感動だった。

吉塚・玄海・地島 交換留学の旅、冒険保育アドベンチャー！

教育理念は同じだが、環境の良さはそれぞれに魅力一杯。玄海ゆりの樹幼稚園は自然に囲まれた緑豊かな環境、海や山の小動物や植物遊び、吉塚ゆりの樹幼稚園は、キラキラタワー、全天候型グラウンド、大型遊具での遊びと、魅力が違う。この良さを味わってもらいたいと、交換留学を考えた。その名も「冒険保育アドベンチャー」園バスに乗って夏休みに出かける。園児は前日から大興奮で当日を迎える。

新幹線でGO！

吉塚ゆりの樹幼稚園のみの実施。新幹線の車両基地が博多駅の先にできた、住民の要望で、新幹線の足はここまで伸びた。これを使わない手はないと再度思った。今度は博多駅との交渉。新幹線の貸し切りは無理だといわれた、孫を連れて何度も乗車した。車両基地の博多南駅までの乗車は遠い1-3両にはほとんど人が乗っていないことがわかった、これに普通に乗車させてもらおうと交渉した。

1-3両には園児が140名乗ってくることを、駅員さんから伝えてもらった、みんな移動してくれて、結果、貸し切りで乗車できた。園バスで博多駅まで園児は乗車し、園児を下した後は、博多南に先回り。着いた園児を載せて空港見学、新幹線と飛行機の旅は楽しく終了。

お預かり保育

27歳で私(美稚子)が園長になった当時、長女1歳11か月、長男3ヶ月、困ったのは夕方の我が子の世話、終礼が終わってたまった仕事を片付ける間、我が子はほったらかし。だれか見てくれる人はいないか、当時の実習生に頼んだ、学校の帰りに寄ってほしい、その願いをかなえ、我が子のおむつを替えてくれた学生は、今、吉塚ゆりの樹幼稚園の最年長50歳を超える。そして、自分が困っているなら、他の人も困っている、ならば、幼稚園が預かればいい、職員と相談、預かり保育を始めた。日本で始めてのことだったので、監督官庁からおしかりも受けたが、今現在、日本でお預かり保育をしていない幼稚園は皆無である。

初代園長、前理事長の遺志を継ぎ、私達は物的環境に加え、人的環境、教育内容も向上していく決意してから40年。園児に愛され、保護者の方に信頼して頂き、ゆりの樹幼稚園の良さをずっと保ち続けるには、物的環境だけではなく職員の質、教育の質を保つこと。

明るい雰囲気、仲間意識が高く、助けて助けられて、支えて支えあう人間関係、自分から楽しんでリラックスして頑張れる自分づくり、自己研鑽、自己成長の為の行動変化する職員と共に、更により良き進化するゆりの樹幼稚園であり続けることが、このことを実現、達成することになる。その為に私(美稚子)は大学院にも通った。論文のテーマは「私立幼稚園教諭のストレスとコーピング」

なんとしても、ゆりの樹幼稚園の職員には、この幼稚園に努めてよかった、自分の人生のある時間を、このゆりの樹で過ごせて良かった、と感じてもらいたい一心の研究だった。たとえ、成長の途中で大変なことがあったとしても、振り返った時にいい人生の時間を過ごした、と感じることが出来る幼稚園にしたい。

これからも職員で切磋琢磨し、失敗しても、そこから学び、それを乗り越えたらどんな自分に成長できるだろうと楽しみと生きるエネルギーに変え、ゆりの樹スピリッツを大切に、職員の幸せと幼稚園の成長発展に努めていきたい。

まずは職員が楽しんでほしい、その為には何でもすると思った。職員が楽しんでいるから、園児が楽しんで、成長し、その成長を見て保護者が感動する。そして我が子に感動を伝え、園児が成長する、その姿を見て職員が園児の成長を自分の喜びとして成長する、そんな感動の幼稚園にする!! そのことが園児、保護者達にとっての幸せにも繋がると信じているから……私たちの魂の叫びでもあった。

建物にはこだわった、人にもこだわった、感動の体感教育にもこだわった……それはみんな、私たちの「困った」を解消してきた結果……今では当たり前のことでも当時は、日本で初めて取り組む前例がなにもなかった……我が子にこんな物的環境で、こんな先生から教育を受けさせたい、そして先生たちと毎日、ともに感動して過ごしたいという若いパパとママ園長(今はすっかじいじいばあじいになったが)だったからこそ実現できたこと……それがゆりの樹のストーリー★



Yurinoki youchien